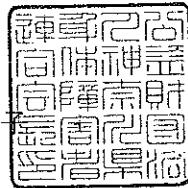


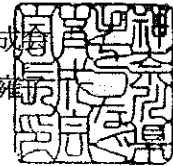
平成28年 4月22日

神奈川県知事
黒岩 祐治 様

公益財団法人
神奈川県身体障害者連合会
会 長 戸井田 愛



神奈川県手をつなぐ育成会
会 長 依田 雅



神奈川県心身障害児者父母の会連盟
代表幹事 内田 照雄



特定非営利活動法人

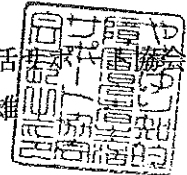
フュージョンコムかながわ
県肢体不自由児協会
理事長 成田 裕子



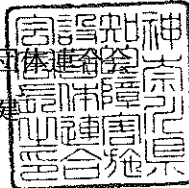
神奈川県障害者運動団体連絡会
代 表 玉井 明



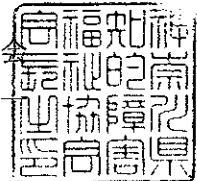
やまゆり知的障害児者生活支援会
会 長 岩本 邦雄



神奈川県知的障害施設団体連絡会
会 長 高山 健



神奈川県知的障害福祉協会
会 長 河原 雄



神奈川県身体障害施設協会
会 長 伊藤 泰

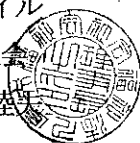


特定非営利活動法人

神奈川県障害者地域作業所連絡会
理事長 海原 泰江



ともしびショップスマイル
社会福祉法人 県央福祉会
理事長 佐瀬 睦



福祉拠点の整備について(要望)

平素より障害福祉施策の推進にご尽力いただいておりますことに、心より敬意と感謝を申し上げます。

さて、平成 27 年 9 月 17 日厚生労働省は新たな福祉サービス等のあり方検討プロジェクトチームの報告として「誰もが支え合う地域の構築に向けた福祉サービスの実現 - 新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン -」を出しました。現状や課題として家族・地域社会の変化に伴い複雑化する支援ニーズ、人口減少社会における福祉人材の確保と質の高いサービスを効率的に提供する必要性、地域の支援ニーズの変化と誰もが支えあう社会の実現の必要性、その解決の考え方として包括的な相談支援システムを構築するとしています。

神奈川県は福祉先進県として、官民一体として神奈川県社会福祉協議会や福祉関係団体と共に、地域福祉を進めてきた歴史があります。行政と共に、地域でのネットワークの形成、福祉人材の育成、民生委員等ボランティア活動等の様々な活動を行い、着実な成果を上げてきたことは言うまでもありません。しかし、この十数年県民の暮らしは福祉関係者が法改正に追われる中で、孤立など多様な形で厳しさが現れてきています。

構築してきた関係を基にこれまで以上に、児童、障害者、高齢者、難病患者、生活困窮者等の包括的ケアを神奈川県ならではの内容で対応しなければならない状況にあります。そのためにはこれまで以上に神奈川県社会福祉会館に集い、福祉関係団体が種別を超えて議論し実践していくと共に県民と協働し、今までのネットワークを更に多様な活動へと広げることが必要であると思います。

神奈川県は福祉の拠点である社会福祉会館での活動に、更に充実した福祉の拠点施設の機能維持が出来るよう民間機関を後押し、福祉団体が県民と共に歩み、県民への福祉サービス向上に発展することができるよう強く求めます。

要望事項

- (1) 各福祉関係団体が福祉ネットワークを維持し、県民と共に県民への福祉サービス向上に取り組めるよう「福祉の拠点施設」において活動し、幅広い支援策を生み出すことができるように環境整備の支援をお願いしたい。